◎食品照射に関するアジア地域協力計画を設立する協定の有効期間を延長す る協定

(略称)

食品照射アジア地域協力計画設立協定有効期間延長協定

昭和五十八年 八 月二十五日 効力発生

昭和五十八年 七

月

八 日

ウィーンで作成

昭和五十八年 八 月十九日 受諾の閣議決定

昭和五十八年 九 月十 七日 昭和五十八年 八 月十九 日 受諾書寄託

告示

(外務省告示第三〇四号)

我が国について効力発生

昭和五十八年 八 月二十五日

B 食品照射アジア地域協力計画設立協定有効期間延長協定 協定の有効の有効期間の延長…………… 次1七〇 ページ

第

前 第

文

延効協 長期定 間の の有

> 食品 有効期間を延長する協定 照射に関するアジア地域協力計画を設定する協定の

(訳文)

十三年八月二十八日に効力を失らので、 域協力計画を設定する協定 力協定の下における千九百八十年の食品照射に関するアジア地 原子力科学技術に関する研究、 (以下「協定」という。)が千九百八 開発及び訓練のための地域協

するので、 用性にかんがみ、 る研究協力及び実用化に向けての協力活動を推進することの有 関 協定の締約国政府 (以下 7 機関」という。は、 協定の有効期間を一年間延長することを希望 (以下「政府」という。)及び国際原子力機 締約国における食品照射に関 す

よつてととに、 政府及び機関は、 次のとおり協定する。

第 条 協定の有効期 間 この延長

作成されたいずれの取決めも、 有する。 の効力を有する。 協定は、千九百八十三年八月二十八日より一年間引き続きそ 別段の合意がない限り、 延長された期間引き続き効力を 協定の実施 0) ために

食品照射アジア地域協力計画設立協定有効期間延長協定

AGREEMENT

THE TO ASIAN REGIONAL CO-OPERATIVE PROJECT EXTEND THE AGREEMENT ESTABLISHING ON FOOD IRRADIATION

Science and Technology is due to expire on 28 August 1983; and Development and Training Pelated to Nuclear Regional Co-operative Agreement for Research, Agreement") within the framework of the Irradiation (hereinafter referred to as "the the Asian Regional Co-operation Project on Food August 1983; and WHEREAS the Agreement of 1980 Establishing

participating countries; on, and co-operative activities towards pracusefulness in enhancing co-ordinated research tical application of, food irradiation in the further period of one year in view of its Agency") desire to extend the Agreement for a Energy Agency (hereinafter referred to as "the Governments") and the International Atomic Agreement (hereinafter referred to as "the WHEREAS the Governments Parties to the

Agency hereby agree as follows: NOW, THEREFORE, the Governments and

ARTICLE

Extension of the Agreement

extended period. arrangements made in implementation of the August 1983. Unless otherwise agreed, Agreement shall continue in force during the further period of one year with effect from 28 The Agreement shall continue in force for a

効力発生

1 ることができる。 局長に通告することにより、この延長協定の締約国政府とな 協定の締約国政府は、この延長協定を受諾する旨を機関の事務

2 加国二箇国の受諾の通告を受領した日に効力を生ずる。 この延長協定は、機関の事務局長が、拠出国一箇国及び参 この延長協定はその後にこれを受諾する政府については、

る。 千九百八十三年七月八日にウィーンで英語により作成した。 機関の事務局長がその受諾の通告を受領した日に効力を生ず

ARTICLE II

Entry into force

notifying its acceptance thereof to the become a Party to this Extension Agreement by Director General of the Agency. 1. Any Government Party to the Agreement may

Director General of the Agency of notifications into force on the date of receipt by the This Extension Agreement shall enter

of acceptance from one Donor Government and two

after, it shall enter into force on the date each Government accepting the Agreement there-Agency of the notification of such acceptance. of receipt by the Director General of the Participating Governments. With respect to

English language. DONE in Vienna, on 8 July 1983, in the

(参考)

題解決のため、 この協定は、 放射線照射による食品保存等について研究開発を行うことを目的とするものである。

国際原子力機関における国際協力の一環として、アジア地域の開発途上国の食糧問